

令和 7 年 11 月 20 日

伊豆市長 菊地 豊 様
伊豆市議会議長 下山 祥二 様
伊豆市教育長 鈴木 洋一 様

伊豆市監査委員 渡邊 光由
伊豆市監査委員 青木 靖

定期監査の結果について（報告）

地方自治法第 199 条第 4 項の規定に基づき定期監査を実施したので、その結果を同条第 9 項の規定により、次のとおり報告します。

記

- 1 監査の期日 令和 7 年 11 月 6 日（木）
- 2 監査の対象 健康福祉部 熊坂こども園
教育部 伊豆中学校、中伊豆小学校
- 3 監査の方法：提出を求めた監査資料等に基づき、各担当課の説明を受けた後、事情聴取及び関係書類の審査を行った。
- 4 監査の結果：監査を実施した範囲においては、関係法令等に準拠して執行されており、おおむね適正に処理されているものと認めた。
- 5 監査の概要、意見
対象施設の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

【健康福祉部】

（1）熊坂こども園

職員は、園長を含み 18 人で、うち一人は育児休暇中である。会計年度任用職員 4 人を含み、10 月以降会計年度任用職員がさらに 1 名増となった。園児は、0 歳児から 5 歳児まで、9 月末現在 61 名で、10 月以降 1 名増となり 62 名である。

職員数はギリギリで、日曜・祝日保育を修善寺東こども園でやっており、熊坂こども園の職員も対応しているため、その振替休暇を平日取得すると、平日の職員が不足となる。勤務する職員は正規時間の前後も勤務にあたるなど、時間外勤務で対応せざる

るを得ない。また、病後児保育が必要ななる場合も、担当する職員が会計年度任用職員の短時間勤務のため、時間外勤務で対応することになる。そのような状況下ではあるが、今年度の夏季休暇は何とか全職員消化できたとのこと。

園舎は、昭和 51 年に建築されたもので、教室が不足しており、ホールを 5 歳児の教室として併用し、イベントの際などは多くの物を移動しなければならなかったり、保健室がなく、職員室の一角をカーテンで仕切って使用したりするなど、苦慮している様子が伺えた。

備蓄物資は概ね揃えている。各種訓練は、火災、地震、水害の訓練を実施しており、土砂災害を想定した訓練も 9 月に実施した。消火訓練は、消防署の指導により毎月実施しているとのこと。不審者に対する訓練は令和 8 年 1 月に実施予定とのことだが、男性職員は 1 人しかおらず、防犯スプレアの配備や道路沿いの出入り口は通常施錠しているとはいえ、少々心もとないと思われる。水害に関しては、排水が悪く水が溜まってしまう土地のため、熊坂小学校との連携を図っており、今夏の台風の際は、被害はなかったが、公民館の 2 階に避難し保護者の迎えを待つなど、早めの対応をしたとのこと。

熊坂こども園に限ったことではないと思われるが、保育教諭たち職員は、保育の質を向上させたい希望があるが、人材不足により、そのニーズにこたえられないことがあると伺った。多くの時間を費やす事務仕事に追われ、思うような保育業務が叶わない状況があり、保育に夢をもって就職したものの、保育の現場の厳しさに、離職をしていく保育士たちがいるとのこと。職員の採用も確保がなかなか困難と承知していますが、現状職員で力を合わせて工夫をしながら、こども園に通う子どもたちが楽しくのびのびと過ごせる環境をつくっていただき、子育ての一環を担っていただきたい。

また、建物は老朽化し、修繕ではまならない状況がきているかと思われます。建替えや他園との統合など、様々な選択肢を検討していただくようお願いします。

【教育部】

(2) 伊豆中学校

市費の職員数は 18 人で、事務職員 2 人(うち 1 人は会計年度任用職員)、用務員 1 人、支援員 10 人、その他 5 人(図書司書 2 名(熊坂小との掛け持ち 1 名)、心の相談員 2 名、市内学校を掛け持ちする情報支援員 1 名)である。生徒数は 1 年 136 人で 4 クラス、2 年 153 人で 5 クラス、3 年 152 人で 5 クラス、特別支援学級 10 人の合計 451 人ある。

本年 4 月から、修善寺、天城、中伊豆の 3 中学校が統合して伊豆中学校となり、広々とした新しい校舎と体育館を使用している。開校から半年が過ぎ、生徒たちも慣れてきて、のびのびと学習をしているように見受ける。

備蓄物資は学年費で全生徒数の非常用食料と飲料水を完備しており、地震や火災の訓練を実施し、また、2 年生は 7 月に救命救急法の訓練も実施している。

通学に関しては、バス通学生徒が増え、特に下校時のバス本数が少ないため、生徒の居場所として伊豆中カフェを利用している。伊豆中カフェは、当初、地域の人たちとの交流の場とする目的もあったが、その運用はされていない。

市からの交付金等は、通帳や通帳印の管理はきちんとされていると確認した。また、理科準備室は、使用後の状態のまま、整理整頓ができていなかった。市費で購入している薬品などは、鍵のかかる薬品室に保管されているが、薬品庫の施錠がされていない。新しい施設で保管場所も確保されているので、きちんと管理していただくようお願いします。

伊豆中学校として、まだ半年程度しか経過していないが、実際に使ってからの不具合等も多少出てきているようなので、それぞれ対処していただきたい。また、今年3月で閉校となった各中学校から移動した物品等が多くあると思うが、なかなか整理ができていないようである。教職員も新しい学校のスタートで多忙と思うが、物品の整理をして、備品台帳等も整えるようお願いします。

(3) 中伊豆小学校

市費の職員数は10人で、事務職員は会計年度任用職員が1人、支援員6人、その他3人(音楽支援員、図書司書、情報支援員が各1名で、すべて他校との兼務)である。児童数は1年33人、2年28人、3年31人、4年23人、5年25人、6年22人、特別支援学級4人の合計166人ある。

校舎は建築から50年以上経過し、雨漏り等の対応が困難になっており、中伊豆中学校の跡地に新校舎を建設し、令和10年4月に新校舎へ移転することになっている。校舎の移転を見据え、それまでの対応に苦慮しているところがあると確認できた。

備蓄物資は、非常用食料や飲料水は学年費で完備されている。各種訓練は、火災、地震、不審者の訓練を実施しており、水害訓練は実施していないが、今年の台風の際に引き渡しを実施したが、年度当初にマニュアルを保護者に渡してあるため、スムーズに行えたとのこと。また、11月中に、予告なしで昼休みの訓練を予定していると伺った。

市からの交付金等は、通帳や通帳印の管理はきちんとされていると確認した。

児童に対しては、6年生は小学校の間はずっと一クラスで学習していたが、中学になると複数クラスになり、一クラスに4人くらいずつ分かれることになるため、新しい仲間づくりや、コミュニケーション対応が困難にならないように指導しているとのこと。

職員は、市費の事務職員が会計年度任用職員で短時間勤務のため、事務室に職員が不在となるときがあり、教員が事務室で仕事するなどして対応しているとのこと。

元の消防署建物を、帰りのバスが来るまで放課後の居場所としており、順調に運営できているとのことだった。令和9年度末には新校舎ができ、子どもたちが心地よく学習できる環境が整うことを期待します。